

うおーみんぐ

NO.36 春

京都府地球温暖化防止
活動推進センター通信

地球温暖化問題に取り組む人のための通信です。

実践活動への意欲を、アイデアを、仲間同士の関係を、ホットに温めます！



特集

低炭素杯2013
京都から出場の2団体がともに受賞



写真

左上 神足小学校の薪置場 関連記事p.2-5

左下 京都府産の食材を使った料理 関連記事p.7

右上 低炭素杯2013受賞団体集合写真 関連記事p.2-5

右下 京丹後木の駅プロジェクトの様子 関連記事p.6



 京都府地球温暖化防止活動推進センター
Kyoto Center for Climate Actions

特集 低炭素杯2013
京都から出場の2団体がともに受賞.....P.2~5

レポート 動き始めた
「京丹後木の駅プロジェクト」.....P.6

活動レポート.....P.7

お知らせ.....P.8

京都府地球温暖化防止活動推進センターは、府内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることを目的に活動するセンターです。平成15年10月10日、府内の多様な団体が連携し新たに立ち上げたNPO法人 京都地球温暖化防止府民会議が京都府知事からセンターとしての指定を受け、その活動を開始しました。

京都府地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国、京都府、府内の多様な団体、会員の皆様などのご支援によって支えられています。



低炭素杯2013

京都から出場の2団体が ともに受賞



全国各地で行われている温暖化防止活動の担い手が集い、その取組を発表・共有し、取組の輪を広げることを目指して2011年から行われている「低炭素杯」。今年は、2月16～17日に、東京ビッグサイトを会場に全国大会が開催され、書類選考を通過した40団体がプレゼンテーションを行いました。

審査の結果、グランプリに輝いたのは「栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班」が行う取組「麻の郷とちぎの環境資源を次世代に」です。地元の伝統的な麻産業を様々な環境問題の解決に活用する取り組みが高く評価されました。栃木農業高等学校は、昨年の大会でもグランプリを受賞しており、2連覇達成です。

京都からは、「京都炭素貯留運営委員会」(活動名:農地炭素貯留技術を用いた農作物のエコ・ブランド化と地域活性化)、「京都府長岡京市立神足小学校」(活動名:地域を繋げる体験型環境学習プログラム)の2団体が出場。それぞれ見事に金賞(地域活動部門)、最優秀地域エコ活動賞に選ばれました。

受賞結果一覧

区分	賞名	団体名	活動名	地域
環境大臣賞	グランプリ	栃木農業高等学校 村おこしプロジェクト班	麻の郷とちぎの環境資源を次世代に	栃木県
	金賞(地域活動部門)	京都炭素貯留運営委員会	農地炭素貯留技術を用いた農作物のエコ・ブランド化と地域活性化	京都府
	金賞(企業活動部門)	レモンガス株式会社	全社員、地域、低炭素活動を推進する高校生が参画する「低炭素技術・商品インキュベーションプロ	東京都
	金賞(ソーシャルビジネス部門)	鹿児島大学 Sustainable Campus Project (SCP) ・ JAグリーン鹿児島	発展する市民参加型生ゴミ循環システム～広がるパートナーシップ～	鹿児島県
	金賞(学生活動部門)	岐阜県立恵那農業高等学校	ゴミの山から宝の山へ ～栗～ん大作戦～	岐阜県
協賛・協力企業／団体賞	最優秀グローバル賞 (ブリティッシュ・カウンシル)	阿南高専 再生可能エネルギー研究会	アジア留学生と小水力発電で環境人材育成と国際交流を図る研究会活動	徳島県
	最優秀家庭エコ活動賞 (株式会社LIXIL)	エコワークス株式会社	住宅のプロによる「家庭(うち)エコ診断」実施からはじめる持続可能な住まいづくりと暮らし方	熊本県
	最優秀地域活性化賞 (一般財団法人セブン-イレブン記念財団)	静岡県立富岳館高等学校 ・キノコ研究班	富士山の緑を守れ!～神秘なる「きのこ」パワー～	静岡県
	最優秀コミュニケーション賞 (3団体)(株式会社オルタナ)	奈良交通株式会社 株式会社ナチュラルファームシ ティ農園ホテル 和賀製菓店	十津川方式～山間過疎地域におけるバス交通維持発展の取り組み～ 農園ホテル秩父における 低炭素社会構築へ向けた子供達の環境教育活動 稲わらを循環資源として活用した「エコたため」	奈良県 埼玉県 秋田県
	最優秀地域エコ活動賞 (NPO法人気象キャスターネットワーク)	京都府長岡京市立 神足小学校	地域を繋げる体験型環境学習プログラム	京都府
特別審査員賞(2団体) (日本マクドナルド株式会社)		荒川区	「節電のまち あらかわ」～低炭素スタイルへGO!!～	東京都
		大葛青若会	大葛七集落対抗節電大会	秋田県
審査員特別賞	最優秀ソーシャル イノベーション賞	東日本旅客鉄道株式会社	エコステ(ecoste:environment earth consciousstation of east japan railway company)	東京都
		Terra Motors株式会社	フィリピンにおける3輪タクシーEV化プロジェクト	東京都
		福岡市 環境局	全国初!! 新省エネビジネス 「事業所省エネ技術導入サポート事業(ソフトESCO事業)」の導入支援	福岡県
		クールシェア事務局	クールシェア+ウォームシェア	東京都
		株式会社 一条工務店	高性能省エネ・創エネ住宅の普及促進	静岡県

各団体のプレゼンテーションは、下記のサイトで見ることができます。

<http://www.zenkoku-net.org/teitansohai2013/movie.html>

低炭素杯2013 プレゼンを動画で見る

で検索



受賞団体取組紹介

「京都炭素貯留運営委員会」 (活動名：農地炭素貯留技術を用いた 農作物のエコ・ブランド化と地域活性化)



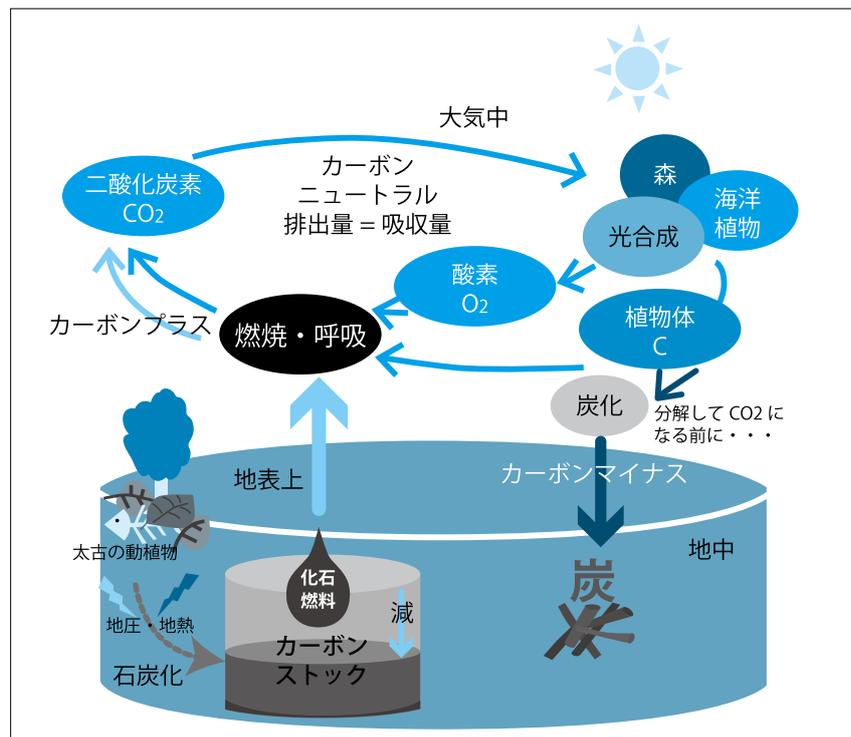
■地球と地域を共に元気に！

京都府の中ほどに位置する亀岡市を舞台に、様々な団体の連系により実践され、注目を集めているのが、「亀岡カーボンマイナスプロジェクト」です。

植物は、大気中のCO₂を吸収して成長します。このため、燃焼させてCO₂を排出しても、大気中のCO₂量はプラスマイナスゼロとみなされます。これを「カーボンニュートラル」と呼びます。さらに一歩進み、植物を「炭」という安定した形に変えて土の中に貯留することで、炭素を長期間固定し、大気中の二酸化炭素量を減らしてしまおうというのがこのカーボンマイナスプロジェクトです。これだけを聞くと、単純な取組のように聞こえてしまうかもしれませんが、しかし、実はこの取組が目指しているのは気候変動緩和だけではありません。農山村振興をも狙っているのです。

■クルベジが都市と農村を繋ぐ

現在、農山村では過疎化が進み、山の手入れが充分には行き届いていません。とりわけ、放置竹林の拡大は深刻な課題となっています。一方で、都会の企業や生活者は、CO₂削減に向けて自分たちができることは何かないだろうかと、選択肢を求めています。そこで、間伐材や竹を使って作成した炭を農地に漉き込



みんなで炭素を貯留。そこで作られる野菜をクールベジタブル、略してクルベジとしてブランド化し、炭素貯留によるCO₂削減クレジットとクルベジの両方を販売することで、都市と農山村を繋ぎ、気候変動緩和と農山村振興を両立させようというのがこの取組なのです。

■具体的な取り組み内容

取組内容を具体的に見てみましょう。まず、地元の自治会が、森林の間伐や竹林整備に取り組み、切り出した材を炭にします。その炭を、地元の農業公社が堆肥と混ぜて「炭堆肥」にします。これを農業団体に販売し、農地で使ってもらいます。取

組は企業の協賛を得て行われており、農地には協賛企業の看板が立てられます。ここで作られたクルベジは、地元スーパーマーケットなどで販売される他、学校給食にも利用されています。クルベジのパッケージには協賛企業の名前が書かれたラベルが添付されており、このラベル1枚当たり10円が、協賛企業からの活動援助金として農業者に入る仕組みになっています。この取組において認証機関となるのが、今回低炭素杯に出場した「京都炭素貯留運営委員会」。同委員会は、大学、行政、学術組織などで構成されています。

■実証実験を積み重ねる

カーボンマイナスプロジェクトは、一朝一夕に出来上がったものではありません。下のように、クリアすべき課題を明らかにし、実証実験を通じて一つひとつを綿密に検証しながら取り組みが進められてきました。

炭を作るコストをどう削減するのか。

持ち運びが容易で比較的安価な炭化器を使用。炭化効率が十分に高いことを確認。

本当に炭素は土壌に長期間貯留されるのか。

炭埋設時における土壌中の長期安定炭素量試験で貯留量を計測し効果を確認。

炭は農作物にどんな影響をあたえるのか。悪影響はないのか。

数種の作物を栽培し、収量に少なくとも悪影響が無く、作物によっては増収が期待できることを確認。

コストアップを誰がどう補うのか。

企業協賛を得て実施する仕組みを構築。

消費者にクルベジを選んでもらうためにはどうしたらよいのか。

店頭で販売する際にアンケートを行い消費者のニーズを把握。

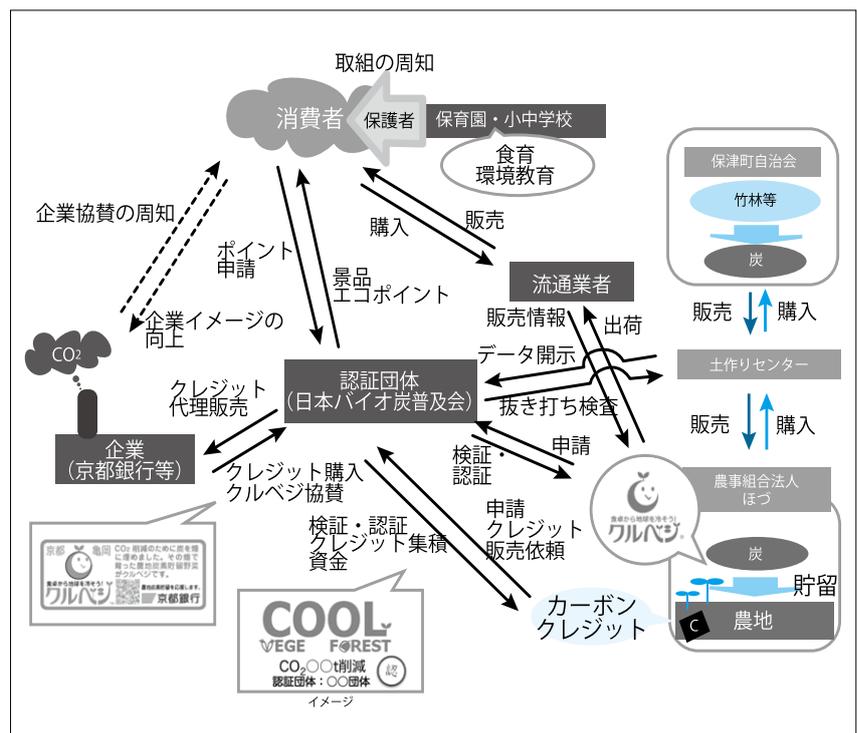
また、オリジナル紙芝居を作成するなどして、地域の子供たちへの「食育」にも取り組んでいます。



■重要なのは仕組みづくり

今回、低炭素杯2013でプレゼンテーションを行った京都炭素貯留委員会の柴田先生(立命館大学地域情報研究センター)は語ります。「炭に土に埋めたらええっちゃう単純なものやない。コストをだれがどう負担するのか、野菜をどこでどう販売するのか。重要なのは、持続的に取り組めるための仕組みを、地域で知恵を出し合ってちゃんと作ることや」。

まさに地域ぐるみの仕組みづくりという観点が高く評価されての今回の「金賞(地域活動部門)」の受賞。今後、取組がますます発展することが期待され、注目が集まります。





受賞団体取組紹介

「長岡京市立神足小学校」 (活動名：地域を繋げる 体験型環境学習プログラム)



■地域連携で多様な取組を実践

長岡京市立神足小学校は、JR東海道線長岡京駅にほど近い街中にある小学校です。

神足小学校で取り組まれているのは地域と連携した環境教育。教育と言っても、単に本を読んだり話を聞いたりして勉強するだけではありません。中庭のビオトープ作り、つる性植物を使ったグリーントネル作り、商店街の手作りLED街路灯作成など、様々な実践活動とそれを通じての教育が、地域との連携で進められています。こういった取組のうちの一つが、学校での薪ストーブ利用とこれに関連する学習です。

■図書室で薪ストーブを利用

学校の図書室には薪ストーブが設置されており、休み時間になると、ストーブ前の畳コーナーで気持ちよさそうに本を読む子どもたちの姿が見られます。薪ストーブ本体は、森林総合研究所が実施する調査研究の一環で設置されたもの。薪は、「里山再生市民フォーラム」などで活動する地域のボランティアの方々が、近くの「西山」の森林整備から出たものを運んで来ています。柴刈りには児童らも参加しており、学校の薪置場には、子どもたちが自分の名前を書いた柴が積み上げられています。火の管理が気になる場所です

が、これは図書館司書の先生が担当してくださっているとのこと。当初、薪が燃える臭いをくさいと感じた児童もいたようですがすぐに慣れ、薪ストーブはスムーズに受け入れられ活用されています。

■循環を頭・心・体で実感

子どもたちは、柴刈りに合わせて、森林が持つ生態系保全、水源涵養、防災、CO2吸収といった様々な機能について、地域の方のお話や共同作業の中から学びます。「ボランティアの方々、企業の方々、市役所など、いろいろな人たちが西山を守っていることが分かった。今まで遠くに感じていた森が生活とつながっていることがわかり、森を身近に感じるようになった」と児童は言います。

また、柴刈りに併せ、コナラのドングリを拾ってきて苗を育てており、徐々に西山へと植えに行っています。「立派な木になって、命や水や私たちの生活を守ってほしい。そしていつか、薪となって私たちの学校に戻ってきてほしい」。低炭素杯で



の子どもたちの発表は、とてつもなく大きな「循環」を、頭だけではなく、心と体で理解していることが伝わってくるものでした。

■本物の体験は地域でこそできる

安久井校長先生は語ります。「環境教育が重要と言われますが、体験ができないと身に付きません。しかし、本物の体験というものは、学校だけではなかなかできないのです。この学校は街中にありますが、古くからの住宅地も多く、学校と地域が本当に近い距離にあります。保護者や卒業生を含めた地域の様々な人が一緒になって活動して下さるからこそ、このプログラムが成り立っています。」

■環境教育で得られる自信

なお、校長先生に低炭素杯の感想をお聞きすると、こんな答えが返ってきました。「とても大きな会場なので大丈夫だろうか、大人たちは心配していました。でも、実際に発表する子どもたちは『これくらいなら大丈夫』と堂々としていました。そこには、実践活動や、様々な機会での取組発表を通じて身につけた自信が感じられました。実は、算数など日常の授業の中でも、堂々と自分の考えを発表できるようになっています。低炭素杯のような機会をいただけたことで、子どもたちはまたひとつ成長できます」。

木の利用で人も地域も元気になる!?

～レポート 動き始めた「京丹後木の駅プロジェクト」～



京丹後市では2012年12月に「京丹後木の駅プロジェクト」が試験的に実施され、84トンの間伐材・未利用材等(以下、間伐材)が地元の山主の方などにより山から搬出されました。搬出した間伐材は、量に応じて地域通貨「モリ券」に交換されます。このモリ券は京丹後市内59の商店等で使用することができ、試験期間中に44万円分の利用がありました。

今回、この「京丹後木の駅プロジェクト」で中心的な役割を担ったNPO法人エコネット丹後事務局長の味田佳子(推進員)さん、京丹後市農林整備課の野村隆文さんのお二人にお話を伺ってきました。

■間伐材や未利用材の利用で地元を元気にする 「木の駅プロジェクト」

木の駅プロジェクトは、地域に間伐材などを固定価格で買い取る集積拠点を作ることで地元の山主の方や森林ボランティアが気軽に間伐材を現金化できる仕組みをつくり、森林整備活動の裾野を広げる取組みです。また、「現金化」と書きましたが実際には「モリ券」と呼ばれる地域通貨が発行されます。用途を地域の商店等に特定することで、森林整備をした結果得られたお金が地域に還元されます。この仕組みは高知県ではじまり全国に広がっています。

■好評を博した「京丹後木の駅プロジェクト」

今回、京丹後市で「京丹後木の駅プロジェクト」が、京丹後木の駅実行委員会(事務局:京丹後市農林整備課)によって1ヶ月間、試験的に実施されました。NPO法人エコネット丹後が事務局となり京丹後市内に3箇所の間伐材の集積地を設け、間伐材の搬出を地域の山主の方に呼びかけた結果、1ヶ月で84トンが集まりました。間伐材の引き取り価格は1トン=6000モリ(※モリ券の通貨単位。1モリ=1円)ということで決して高くはありませんが、試験事業に参加した山主の方からは「また参加したい」という感想が多く、魅力的な事業だったことが伺えます。なお、この間伐材は京都府内のチップ工場に販売されます。

■これからの広がり、期待すること

今回、1ヶ月間という短い実施期間でしたが、味田さんはこの事業に関わり“京丹後市は広葉樹林が多く、薪やしいたけのほだ木に適した丸太が多く集まるのが強み。チップではなくもっと付加価値の高い売り方ができないか”と感じられたそうです。また、山主の方だけではなく、森林ボランティアや地域の若者を集めての間伐材の搬出作業なども行ないたいとのことでした。

短い実施期間で、参加したいけれどタイミングが合わなかった方、取組みを知らなかった方もたくさんいらっしゃったということで、広報に力を入れることでもっと多くの方の参加を得られる可能性を感じました。京丹後木の駅プロジェクトは2013年度も期間を半年に延長して実施される予定です。その中で仕組みの改善とより一層の間伐材の流通促進が期待されます。



活動レポート

京都府地球温暖化防止活動推進センターの主な活動を報告します

2012年秋 カエデ調査結果がまとまりました

2012年秋も無事カエデ紅葉日調査を終了することができました。今回は、京都府地球温暖化防止活動推進員および京都府立園部高校の生徒さん併せて108名の方から、笠置町・宇治市・八幡市・長岡京市・京都市・亀岡市・南丹市・京丹波町・兵庫県豊岡市の計83地点の報告がありました。京都市内周辺では、多くの地点で11月25日が紅葉日と推測されました。

過去5年間の経年調査のデータを振り返ると、今回は初めて紅葉日が早まった年となりました。毎年同じカエデの木を過去5年間調査している京都府地球温暖化防止推進員Mさんの写真を比べてみると、確かに2009年の秋より2012年の方が早く紅葉が進んでいることが分かります。このように、毎年観測することで、身近な自然の変化と気温の関係を身近に感じることができます。調査を呼びかけている事務局としても、今後とも継続した調査の必要性を改めて感じました。



2009年11月24日



2012年11月24日

京都府立大学生命環境科学研究科主催シンポジウム『地球温暖化を防止する生活の科学』—温暖化防止推進活動を支援する生活科学の役割を語る—が開催されました

3月20日に、表題のシンポジウムが開催され、当センターも共催という形で関わらせていただきました。シンポジウムの前半では、府立大の先生をはじめとする専門家の皆様が、「温暖化防止の住まいと暮らしの知恵」「3Rから考える温暖化防止」「木材の地産地消による森林保全と温暖化防止」「市民が進める温暖化防止への提言」の4テーマについて、様々なデータを駆使して温暖化防止活動に役立つ情報を提供してくださいました。後半のパネルディスカッションでは、先生方に加えて4人の温暖化防止活動推進員さんが登壇。普段の活動内容や今後の抱負を語ってくださいました。参加者アンケートには「ぜひ今回のような地域活動と研究を結びつけるようなシンポジウムをまた開催してください」という感想がいくつも書かれており、研究と実践活動とが出会う大変貴重なシンポジウムになりました。

「低炭素型食の好循環プロジェクト」社員食堂で地産地消取組報告会開催

「おいしおす京都2012」と銘打って、昨年10月～12月に京都府内の社員食堂で地元食材を使ってもらうキャンペーンを実施。その取組成果報告会を3月11日（火）ウエダ本社会議室にて行いました。株式会社ワコールおよび株式会社堀場製作所からの事例報告の後、京都府立大学の宗田好史氏を交えてのパネルディスカッションを実施。それぞれの報告から、地産地消の取組が地球温暖化防止に貢献すること、さらに社員の健康増進にも繋がるということが話題となり、今後も地産地消を継続する大切さが確認されました。



お知らせ

Information

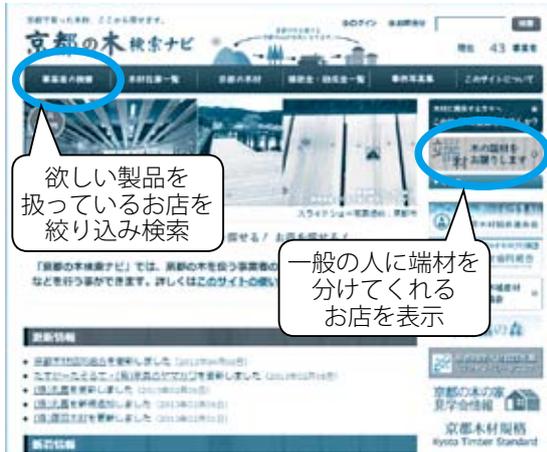
京都産の木材製品が探せる！ 「京都の木検索ナビ」をご活用ください

京都府温暖化防止センターでは、京都の木を扱う事業者の検索、事業者の在庫の検索などを行う事ができる「京都の木検索ナビ」を運営しています。

「自分の住んでいる地域で、京都の木での家づくりに対応してくれる製材所を探したい」

「京都の木の端材が欲しい」

という方、ぜひ一度、ホームページをご覧ください。あなたの欲しい物を売っているお店がきっとみつかります。



URL : <http://www.kyomokumoku.net/>

◆◆◆ 5月1日より事務所が移転します ◆◆◆

平成25年5月1日より、下記住所に事務所が移転することになりました。大変お手数ですが、住所録等の変更をお願いいたします。

温暖化防止活動のますますの活性化に向け、スタッフ一同、心新たに組みんでまいりますので、今後ともどうぞよろしくをお願いいたします。

新事務所
住所・
連絡先

〒604-8417 京都市中京区西ノ京内畑町41番3
TEL : 075-803-1128 FAX : 075-803-1130
太陽補助窓口専用 : 075-803-1129



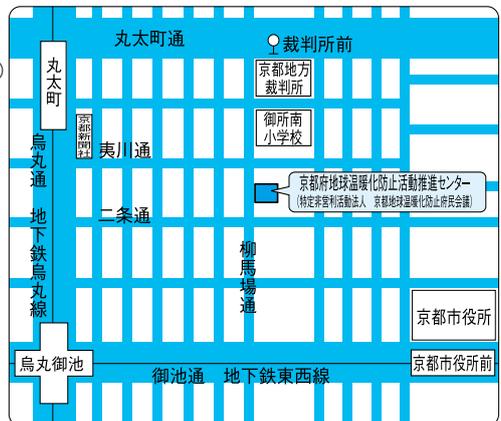
京都府地球温暖化防止活動推進センター通信「うぉーみんぐ」

(平成 25 年春号 平成 25 年 3 月発行 (年 4 回発行))

発行：京都府地球温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 京都地球温暖化防止府民会議)
理事長：郡嶋 孝 運営委員長：浅岡 美恵
〒604-0965 京都市中京区柳馬場通二条上る六丁目 283 番 4
TEL : 075-211-8895 FAX : 075-211-8896
URL : <http://www.kcfca.or.jp> E-mail : center@kcfca.or.jp

編集：木原浩貴 川手光春 竹花由紀子 西澤浩美 瀧上佑樹

法人の活動を支えてくださる会員を募集しています！
年会会費 正会員 (個人) : 2,000 円 正会員 (団体) : 3,000 円
準会員 (個人) : 2,000 円 準会員 (団体) : 3,000 円
賛助会員 : 10,000 円
詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。



この印刷物は、古紙配合率 100% の再生紙に、大豆インキで、風力発電による自然エネルギーを使って印刷しています。

